

燈々会だより



No. 35

平成 30 年 2 月発行

編集発行 新潟県在宅保健師の会「燈々会」
事務局 新潟市南区和泉 361-2 ☎(025)373-3967

国民健康保険制度改革と私達の役割

会長 安達 ミチ

会員の皆様には新しい年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

ここ数年、地球温暖化の影響が各地に及び、気象観測史上記録更新の豪雨、暴風、突風、豪雪により甚大な災害が発生しています。被災された方々には、一日も早く通常の生活を取り戻され安寧な日々を送られることを心から願っています。

さて、平成27年度成立した国民健康保険法の一部改正する法律により、本年4月から都道府県が財政運営の責任主体となり、安定的財政運営、効率的事業運営を市町村と共に担うことになりました。

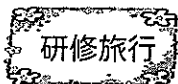
改革の背景には、増大する医療費（平成28年度41.3兆円、毎年ほぼ1兆円ずつ増加）、少子高齢化（人口減少局面を迎えているが、高齢化率は上昇、平成28年27.3%）により、現役世代の負担増（後期高齢者は若人の5倍の給付費）、国保の構造的な課題（被保険者の年齢が高く医療水準が高い）が根底にあり、我国が世界に誇る国民皆保険制度を将来にわたって堅持する為に、医療保険制度の安定化、世代間の負担の公平化、医療費の適正化が改革の方向性として示されました。当会としては、県、国保連合会、市町村等関係機関と連携しながら、先輩方が目指し、実践してきた活動を継続していきたいと思えます。

去る12月7、8日に東北地方在宅保健師等会連絡会（青森県・岩手県・秋田県・宮城県・福島県・山形県・新潟県から54名参加）が山形市で開催されました。その際、国保中央会調査役鎌形喜代美氏ご講演『国民健康保険制度改革と在宅保健師等への期待』の中で在宅保健師に対して次のお言葉がありました。「キャリアのある専門職であり、健康に対する知識があり実践してきている。予防的視点を培っている。コミュニケーション力があり、地域の人とのつながり、信頼関係の構築が出来ている。健康づくり、まちづくりにかかわってきている人材なので、皆さんの地域に合った活動の展開を期待しています」私達へのエールとありがたく受け止めたいと思います。



平成29年度 新潟県在宅保健師の会「燈々会」研修旅行

平成29年9月12日・13日 於：佐 渡 市



研修旅行

皆様をお迎えして

平成29年9月12・13日

佐渡支部
土屋 貴子

前回の佐渡での研修旅行では、佐渡島北端部の大野亀でトビシマカンゾウの花苗植付け体験や、文弥人形公演（故 柏倉八重様出演）鑑賞等、主に金北山側の大佐渡方面を中心とした行程だった。今回は南佐渡の良い所をご案内したい…と、支部会員の意見はすぐに一致した。上越地区の皆様には、直江津港からのアクセスが良い事も大きな理由のひとつとなりました。

ただ、島といっても佐渡は南北に長大で、お天気にも大きく左右される船旅を経てからのバス移動を強いる事になり、『申し訳ないな…』と、支部会員は天気予報とにらめっこの日々を送っていました。

当日の午前中は荒れた空模様の影響で、直江津ー小木航路の高速カーフェリー「あかね」が、かなり遅れて到着し、押し気味の行程となってしまう、

体調を崩された方にはハードな内容だったと反省しています。

2日目は晴天となり、宿根木の重要伝統的建造物群保存地区の散策やたらい舟体験、地元の人しか知らなかったジオパークの遊歩道を皆様と一緒に歩いて、新しい発見ができ、私自身も心から楽しむことができた研修旅行となりました。この場をお借りして全面協力をして下さった支部会員の皆様にもお礼を申し上げます。



研修旅行に参加して

上越支部 小林 淳子

佐渡研修を楽しみに待った。船を降りた時思わず「佐渡だ」と地面を踏みしめた。空に舞う朱鷺に出逢う事を楽しみにバスに乗り込む。残念ながら大空に舞う朱鷺には出逢わなかった。トキの森公園では実物の朱鷺をゆっくり観察できて大満足。

新潟日報、島の文芸欄に「秋草に落ちし羽根あり朱鷺の里」と新穂の方の俳句があり、佐渡研修の余韻を今も楽しんでいるこの頃である。

上越支部 西島 弘子

国の建造物保存地区、廻船業として発展した宿根木。狭い土地に住宅が密集。町中にある用水路は幅深さもある。用水路を渡る船主さんの橋は、花崗岩で念仏橋と云われ佐渡の文化財です。三角家は船作り技術を生かした家。又世捨小路の石畳は大勢の人が通る中央部が窪んでいます。学者柴田収蔵さんの生家（世界地図など作成）も現存しています。歴史のある町の大切さを深く胸に刻みしました。

新潟第一支部 板垣 和子

トキに見送られ「たたこう館」へ。色んな太鼓叩きを体験し心地良い汗をかけたが、このリズム感こそ健康づくり・認知症予防・仲間づくり等一石二鳥が三鳥にもなるとのこと。しかし、自分のリズム感のなさも痛感した。樹齢600年の樺で作った太鼓の「やまいもくん」、「ぶたばなちゃん」を講師のサミーちゃんが実演してくれた。五臓六腑に響く最高のものだった。本当に頭と体をリフレッシュすることができた。



市町村栄養士等研修会

新潟県国保連合会 保健事業専門員

櫛谷 優子

CKD（慢性腎臓病）は生活習慣病と深く関係しており、生活習慣病（糖尿病性腎症・腎硬化症）で人工透析となった人は全体の60%を占める。CKDの重症化予防には、健診結果に基づく適切な医療受診はもちろん、高血圧・糖尿病等の発症予防・重症化予防が重要である。

そこで今年度は「CKDの重症化予防」を通して、個のデータを活かした指導、医療機関と地域の連携を学ぶことを目的に実施した。

最初に、新潟大学医歯学総合病院栄養管理室々長 村山稔子様より「CKDの重症化予防に向けた指導」と題し講演を頂いた。CKD重症化予防には日々の生活習慣の改善が重要であり、そのための保健指導のポイントについて講話頂いた。

次に、新発田市栄養士の和泉晴香様より、「市町村栄養士が行う医師依頼訪問」について事例発表を頂いた。診療依頼書兼結果通知書等を通じて、年間約80件の訪問をし栄養士が積極的に訪問を行っている先進事例について講話頂いた。

最後のグループワークでは、様々な職種の方が一堂に会し、「健診結果等のデータを活かした保健指導」について、意見交換を行った。

研修会報告

在宅保健師等研修会

新潟県国保連合会 保健事業課

保健師 宮川 裕子

高齢化を背景に近年注目されている「肺炎」を中心とした呼吸器疾患等について学び、地域の保健活動・介護予防活動に活かすことを目的に研修会を実施した。

講師は厚生連新潟医療センター病院長の吉澤弘久様より「肺炎～高齢期呼吸器疾患の特徴と予防について～」と題して講演を頂いた。肺炎の種類や病態、予防、治療等について診療の事例を交えて詳しく説明頂き、活発な質疑応答が行われた。

また、新潟県福祉保健部高齢福祉保健課本間祐美子様より「新潟県の介護予防活動の状況について」と題して情報提供を頂いた。介護保険制度の改正に伴う地域支援事業のポイント等について、市町村の取組みの好事例として地域の通いの場（お茶の間）を交えて紹介して頂いた。

さらに、情報提供を受けて「私たちにできる介護予防活動を考える」をテーマにグループで情報交換を行った。介護保険制度改正の動きと自分の活動を照らし合わせて感じたことや、それぞれの立場でできること・できそうなことを話し合い、グループの代表から発表頂いた。

研修会に参加して

長岡支部 神保 由実子

病院と他市町村の取り組みや実状を知る事が出来た。特に村上市の「透析患者への全戸訪問」が印象に残った。透析前後の状況を聞き取ってまとめ保健指導に生かしてきた。透析患者の生の声は他の保健指導の際に実感を込めて伝える事が出来たと。まずは健診を受け、異常値を放置せず、受療と共に正しく生活習慣の改善に取り組むための支援内容を、行政と医療機関で意思統一を図り連携して行くことが重要で共通の課題であった。グループワークでは、健診データの読み取りや、そこから見える生活習慣の課題と効果的な指導方法等を具体的に話し合った。時間がもっと欲しいと感じた。

新潟第一支部 山岸 美代

「健康寿命は^{のど}は喉力できまる」などの本が出版されるようになり、肺炎が注目されているな？と思っていました時に、研修のテーマにとりあげられていました。医学的な講演をお聞きする機会も少ない中、久しぶりに医学知識をきちんと学ぶことができました。なお80才以上の方の肺炎の90%は誤嚥性肺炎と知り、ショックでした。自分も加担者の一人だったかもしれないと反省しました。今後は特に嚥下動作の訓練や口腔内の清潔に留意工夫を重ねながら介護予防にも従事したいと思います。

又、地域の中の話題としてもとりあげる必要があると思っています。主催者や講師の先生に感謝いたします。



ブロック研修報告

参加総数 73名
参加率 70%



上越支部

会員が集まりやすい日曜日に上越地域の中間施設で行った。昨年に比べ健康上の理由等で参加できない方もおられ15名の参加であった。上越市高齢者支援課の細谷早苗係長から上越市の高齢者支援活動の話聞き情報交換を行った。又、2025年の上越市の地域包括ケアシステムの話では、地域の支えあい活動や多職種の連携、ボランティア活動等々我々在宅保健師の役割は多いと感じた。まさに“今でしょ”である。昼食は地場の米や野菜、果物等をたっぷり使った手作り弁当をいただき満足した。午後は、新設の特養と小規模多機能型施設を見学。特養では試験的に眠りセンサーが導入されていてオムツ交換や看取り介護にも役立っている事なども紹介され驚いた。なにより職員の笑顔がすばらしくあたたかな気持ちがいままで残った。（記 高橋美智子）



柏崎・長岡 魚沼支部

「トモシア」…昨年秋にオープンした市社会福祉センターです。「まだ行った事がない」、「気にはなっているけど一人では入る勇気がない」そんな会員の皆さんの声で施設見学を兼ねて、そこを会場に行いました。日時は、参加しやすいように市の事業のない土曜日の午後に行いました。センター内には、様々な団体・機関が入っていることがわかり今後の活動に利用していけそうです。見学終了後の情報交換は、センター内喫茶店のコーヒー・ケーキを食べながら和気あいあいのもと行いました。新規会員が増えないことの悩みも聞かれ、機会あるごとに入会を呼びかけていこうと皆で確認し合いました。最後に急ぎよ実施した同じ建物にできた介護付き有料老人ホームの見学は、皆さんの関心も高く熱心に説明を聞いていました。参加者は、16名でした。（記 小池マサエ）



三条・新潟 第二支部

現職保健師からの活動報告と交流を中心とした研修が数年続いた為、今年は会員自身が従事している見附市立病院内の「健康の駅」の見学と体験会を行いました。相談業務の実際と健康機器の測定を体験したり、設置の目的や保健師の役割等の説明を受けました。4名の在宅保健師が交代で相談業務にあたり、必要に応じて関係機関の紹介や連絡・現職保健師への情報提供等が行われています。認知症早期発見プログラム、骨密度測定器等をそろえた予防の視点での取り組みと「健康の駅」自身が交流の場であり、時代にあう事業だとの感想でした。

参加した12名は見学終了後、イングリッシュガーデンホテルのランチと花々で心を癒され、楽しい1日を過ごしました。

（記 小林 梅子）





実施期間：平成 29 年 6 月～7 月



新潟第一支部

暑さ厳しい中、美肌効果のある温泉を会場に開催された。出席者数は退会された方 3 名を含む 13 名。研修内容は、要望のあった「地域づくりによる介護予防事業」と題し国の示す方向、内容について学んだ。講師は、新潟県密着アドバイザーとして活躍の会員が担当した。

実践編は膝痛緩和法や難しい折鶴を会員から学ぶことができた。参加者の平近年齢 75.6 歳とは思えない熱心な雰囲気であった。退会された方との会は、今年度が初めてである。当日は、久々の大切な交流の場であるのに、研修内容が盛りだくさんとなってしまう、ゆっくりと過ごして頂けなかった事が心残りであった。参加者からは、「色々学べて良かった」「こんなに笑ったのは久しぶり」等の話しがあった。会員の皆様のご協力の元、無事閉会となった。（記 加藤 隆子）



新発田・村上支部

今年は村上支部が担当し、関川村の「東桂苑」で 12 名が参加して開催しました。健康劇「80才のはなさんの挑戦」を今後も継続し、高齢者の閉じこもり予防に寄与していくことを確認。実施時の配役と連絡網の作業を行いました。地域で実施する健康劇は直接住民とふれあい言葉を交わし、私達燈々会の活動を知ってもらう大切な活動です。今年も胎内市で 7 月と 12 月の 2 回実施します。全員参加で取り組みます。会員確保についてはハードルが高く様々な意見が出されました。自分自身も高齢で現役保健師とのつながりが少ないため声かけも厳しいとの声があり、支部会員の高齢化を改めて感じる結果となりました。ひとりでも多くの未加入者に声かけをしていきたいと思いました。午後からは渡邊邸見学を楽しみました。（記 近 百合）



佐渡支部

今年は研修旅行が当佐渡支部担当という事で、初回は総会の報告と通常の共通テーマについて話し合いました。後半からは研修旅行の企画がメインとなりました。

新会員の 2 名も、さっそく多方面で協力して下さり、皆で色々なアイデアを出し、研修旅行の 2 日目の散策路を「歴史や文化、見どころなどを自分達で案内できるように事前に勉強しよう!!」と支部会員が集まった日も含めると 4 回に及ぶ会合となりました。

今後も会員同士のつながりを大切に、学びを深めていけたら…と思っています。

（記 土屋 貴子）



年を重ねれば、誰でも高齢者になります。新潟県の高齢化率はすでに30%を超えており、団塊の世代が全て75歳以上となる2025年には、3人に1人が高齢者になるといわれています。

増え続ける高齢者の医療費を社会全体で支えるため、後期高齢者医療制度が2008年に創設されました。新潟県後期高齢者医療広域連合は、制度の施行にあたり、県内の全市町村が加入して設立された特別地方公共団体です。75歳以上（一定の障がいのある人は65歳以上）の住民の皆様に対し、保険料の賦課や資格管理、医療給付のほか、被保険者の健康の保持・増進を目的とした保健事業を行っています。

実は、新潟県は後期高齢者1人当り医療費が全国一低いということをご存知でしょうか。これは、制度創設以降、2010年を除いて

ずっと続いています。1人当り医療費が全国一高い福岡県とは、2014年には42万7千円の差がありました。

新潟県後期高齢者はなぜ医療費が低いのか。この理由を「健康で長寿だから」といえるよう、当広域連合では、「健康寿命の延伸」「高齢者の特性に応じた各種サービスの利活用」という2つの目標を掲げた「データヘルス計画」を策定しています。データヘルス計画とは、電子化された診療報酬明細書や健康診査等のデータを分析及び活用し、疾病ごとの医療費比較、高額レセプトの発生状況や発生元となる疾病の把握を行い、明確となった健康課題に対して、効果的・効率的に保健事業を行うものです。当広域連合では、8つの保健事業を行っています。

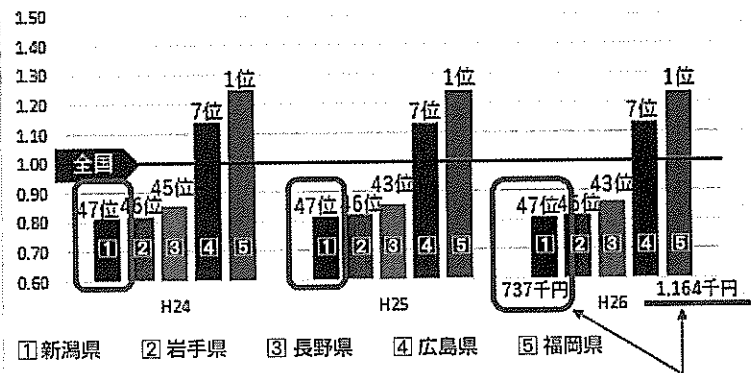
さて、当広域連合で、データヘルス計画を進める上で大切にしているのは、市町村やその他関係機関との連携です。

後期高齢者医療制度の被保険者は、後期高齢者になる前は被用者保険や国保の被保険者です。若い頃からの生活習慣の積み重ねは非常に大切で、後期高齢者になってからの健康状態に大きく影響します。また、医療保険が変わっても、地域の住民であることは変わりません。市町村では、地域の資源を活かした保健事業や介護予防事業等を行っていることから、当広域連合では、被用者保険や市町村事業からの連続性や類似性を踏まえて、協力しあって事業を行っていきたいと考えています。

加えて、後期高齢者は複数の慢性疾患を保有しており、フレイルなどを要因とする老年症候群の症状が混在するため、包括的な疾病管理とより専門的な支援が必要です。そこで、地域の医師会・歯科医師会・薬剤師会・栄養士会・地域包括支援センター等と連携し、事業の委託や助言・協力等をお願いし、地域全体で被保険者の健康寿命の延伸を目指していきたいと思います。

燈々会の皆様におかれましては、市町村の保健事業で第一線で活躍されてきた方々です。ぜひ、新潟県が健康長寿の県となるため、お力を貸してください。

後期高齢者1人当り医療費 対全国比
(年齢補正後)



42万7千円の差

新潟県後期高齢者医療広域連合で取り組んでいる保健事業

- 健康診査事業：後期高齢者の健康診査
- 歯科健康診査事業：後期高齢者の歯科健診
- 糖尿病性腎症重症化予防事業：市町村の取組に補助金交付
- 健康相談・指導事業
 - 在宅要介護者歯科保健事業：要介護3以上の方へ訪問歯科健診
 - 在宅訪問栄養食事相談事業：低栄養状態等の方へ訪問栄養相談
- 長寿・健康増進事業：市町村の取組に補助金交付
- 重複・頻回受診者、重複投薬者対策事業：対象者に訪問健康相談
- ジェネリック医薬品普及・啓発事業：啓発カード、差額通知事業
- 薬剤併用禁忌防止事業：薬剤師、地域薬剤師会と共有認識

1. 会 議

- (1) 総 会 日時 平成29年 4 月25日 (火)
於 新潟県看護研修センター 39 名出席
- (2) 役員会 5 月17日(火) 5 名、9 月25日(月) 5 名、
12 月18日(月) 5 名
国保連合会との会議 9 月19日(火) 5 名
- (3) 幹事会 5 月26日(金) 14 名、12 月18日(月) 15 名
- (4) 「燈々会だより」編集委員会 5 月20日(土)、
6 月 3 日(土)、7 月 7 日(金)、8 月 7 日(月)、
9 月 9 日(土)、9 月30日(土)、11 月18日(土)、
1 月17日(火) 年 8 回

2. 事 業

(1) 事業関係

- 1) 記念講演会「あなたも太極拳に挑戦」
32 名出席 講師 関 文恵先生
日本健康太極拳協会師範

2) 研修会

- * 会員の親睦を兼ねた研修旅行 担当：佐渡支部
9 月12日(火)～13日(水) 29 名出席
トキふれあいプラザ～史跡のみち～太鼓体験
宿泊：小木「花の木」
- * ブロック別研修会①～⑥の 6 ブロックで実施(73 名)
- ① 上越支部 6 月25日(日) 15 名
上越市高齢者支援活動について
特養と小規模多機能施設見学
- ② 長岡・魚沼・柏崎支部 7 月15日(土) 16 名
長岡市社会福祉センター「トモシア」及び隣接
の介護付き有料老人ホームの施設見学
健康劇について情報交換
(新会員の勤めについて)
- ③ 新潟第一支部 7 月15日(土) 10 名+退会者 3 名
介護予防について講義と実践
- ④ 新潟第二・三条支部 7 月 9 日(日) 12 名
見附市の健康の駅に駐在する在宅保健師の活動
健康の駅に設置してある脳年齢測定や簡易骨密
度測定器体験
- ⑤ 新発田・村上支部 6 月17日(土) 12 名
健康劇の進め方について 会員確保について
- ⑥ 佐渡支部 5 月15日(月) 8 名
研修旅行企画 新会員確保について
健康劇について

3) 高齢者ふれあい事業

平成29年度継続地区（4 地区）

支 部	名称 (担当者)	支 部	名称 (担当者)
魚 沼	ふれあいサロン (富 所)	新潟第二	曾根町部サロン (青 柳)
新潟第二	いきいき私たちの会 (阿 部)	三 条	羽生田ふれあいルーム (桑 原)

- 4) 健康劇の取り組み 各地区で上演中

(2) 協力事業関係

- 1) 新潟県藤楓協会総会 4 月24日
富所前会長出席

- 2) ハンセン病療養所施設訪問 粟生楽泉園（群
馬県）7 月12日(火) 安達会長

3) 救護員派遣

- ◇第22回にいがたねりんピック
5 月14日(日) 若井和美（上越）
5 月19日(金) 清水一美（長岡）
5 月21日(日) 羽田野孝子（新発田）
6 月18日(日) 土屋貴子（佐渡）

◇クリスマスチャリティ公演

- 11 月13日(月) 徳永和子（新潟第二）
- 4) 粟島浦村特定健診等業務への協力
特定健診：5 月18日(火)～19日(金) 延べ 6 名
結果説明：6 月27日(火)～28日(水) 延べ 6 名
7 月 4 日(火)～5 日(水) 延べ 4 名

5) 県民介護知識・技術習得講座講師

- 6 月19日(月) 渡辺満里子（新潟第二）
7 月 4 日(火) 柴本文恵（長岡）
10 月20日(金) 近 百合（村上）
12 月15日(金) 笠原孝子（新潟第二）

6) 高齢者疑似体験普及講習会事業

◇新潟第二支部

- 6 月27日(火) 吉田南小学校 担当者 午前 6 名
午後 5 名
10 月19日(水) 県立吉田高校 担当者 4 名

◇長岡支部

- 10 月17日(火) 出雲崎中学校 担当者 2 名
- 7) 結核予防協会事業への協力(複十字封筒・シー
ル) 525 部 105, 000 円
- 8) 新潟県藤楓協会募金 21,350 円

(3) 会員の福祉

- 米寿の方々への慶祝 新発田支部 須貝文子姉
- (4) 「燈々会だより」第34号 9 月配布
第35号 2 月配布
- (5) 県国保連合会主催の研修会・講習会等に積極的
参加

- 1) 市町村栄養士等研修会 8 月23日(水) 10 名
- 2) 在宅保健師等研修会 11 月29日(水) 29 名
- 3) 東北地方在宅保健師等連絡会議
12 月7日～8 日 山形県にて
安達会長、永戸副会長 青木常任幹事

3. 運営について

会員の増大、組織の拡大が課題
会員数 10 月31日現在 112 名
(うち10 条会員 8 名)

入会のお誘い

是非お仲間!!

年会費 4000 円

各支部会員に
お申しください。



ヒオウギア
メは紀子様
のお印です。

【 会 員 の ひ ろ ば 】

「孫とのふれあい」

村上支部

今年1月に後期高齢者になり、大台に突入しました。孫は12歳(第3子)。出生3日目で大学病院に緊急搬送され、手術を受けました。腸の病気で1年後に再手術を実施し、経過は良好で順調に発育しました。保育園までは時々脱水状態になり入院を繰り返していましたが、小学校に入学してからは殆ど休むこともなく丈夫になりました。

佐藤 貞子



今は野球に水泳に頑張っています。学校から帰ってくると宿題と一緒に勉強しています。良い刺激をもらっています。何時まで続け



て付き合うことになるか疑問ですが、この孫とのふれ合いが、良い脳トレになっており喜んでおります。

「最近思うこと」

上越支部

燈々会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は母の介護のため早期退職し26年が経ち、若かった私も今年「後期高齢者」の仲間に入りました。燈々会に入会し26年、H29年の総会、ブロック研修、佐渡への研修旅行も終わり今年も元気に過ごせたなあと思う昨今です。健康の方は健診を受けるたびに故障箇所が増え、運動嫌いな私も近くの教室に筋力増加、体力保持を目的に運動に参加し始めました。効果があったかどうか私は感じませんが、

桑島 弘子



歩いても息切れはなくなり、汗もかくようになりました。月に8回位しか通えず、整形の医師には歳を考え力量以上のことはするなと言われてしています。おしゃべりする友達も出来、認知症予防のためにと頑張っています。手先を動かすと呆けないとの説で趣味を持とうと「ちぎり絵」もしていますが、手先だけでなく身体を動かすことも体力向上には大切であることを実感しています。



「暑さ厳しい夏のできごと」

魚沼支部

7月に入り忙しさと寝不足で、暑さに対する注意を怠り体調を崩してしまいました。ある日午前中はボランティアに行き、午後は頭痛と筋肉が縮んだ感じ3日間なにもせず休養しました。その後は体調に合わせ過ごしておりましたが、すっかりせず。今年は「全日本おかあさんコーラス大会」に参加することになっておりました。8月下旬のコーラス大会の開催される岡山行きが心配になってきました。そこでかかりつけ医に受診、先生に

佐藤 桂子



「1ヶ月も前からなら、すぐに病院に行くように」と言われ、病院へ受診。ある日、普通に水を飲んでいて自分に気付き「治った」と思ったのは、お盆も終わりの日でした。なんとかコーラス大会に参加することが出来ました。久しぶりの旅、美しい姫路城、大会で戴いた選考委員奨励賞、良い思い出になりました。暑さの怖さを体験した夏でした。



おくやみ

謹んでご冥福をお祈りいたします

●新発田支部 渡辺 ミツエ

平成29年10月14日逝去



編集後記

寒波が襲来。いよいよ厳しい冬が本番となりました。燈々会だよりは、皆様から暖かい内容が寄せられて感謝しております。今後も会員を繋ぐ“たより”にしていきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

(編集委員長 徳永 和子)